

実践タイトル

料理の注文をして，料理の感想を言ってみよう  
＜休校中のオンライン授業での活用例＞



ひとこと

英語専科として2校に勤務している。日頃から、英語を授業で学習するだけでなく実際に使ってみる場面をできるだけ設け、楽しみながら学んでいけるよう心掛けている。「英語が使えると楽しい」「英語ができると友達ができる」「英語ができると世界と繋がれる」と感じられる児童の姿を目指している。

実践者 坂口 和代

学 校 名：上越市立春日新田小学校  
学校所在地：新潟県上越市大字春日新田1274番地  
TEL：025-543-4256  
URL：http://www.harushin.jorne.ed.jp

使用するICT機器・準備物

指導者

デジタル教材	指導者用デジタル教科書(教材), 学習支援システム(GoogleClassroom, Google Meet, Google Slide)
使用端末	iPad OS
その他機器	Apple TV, プロジェクター, マグネット式のホワイトボード

学習者

デジタル教材	学習者用デジタル教科書・教材セット, 学習支援システム(指導者用と共通)
使用端末	1人1台使用(iPad OS)
その他機器	

学校内のICT環境, 活用実態

文部科学省のGIGAスクール構想を受け、上越市では2021年度に全児童に1人1台のiPadが整備された。児童の発達段階に合わせて、各教科の授業で積極的に活用している。

通常教室にはWi-Fi環境が整い、当校ではプロジェクターとApple TV、黒板に張り付けるマグネット式のホワイトボードが1台ずつ配置されており、どの学級も同じような環境で指導ができる。Apple TVにつなげるとワイヤレスでiPadの画面を共有できるため、教室を自由に移動しながら指導できる。また、児童が発表する際にも、児童自身がApple TVにミラーリングすることで、短時間で効率的にプロジェクターに投影することができる。

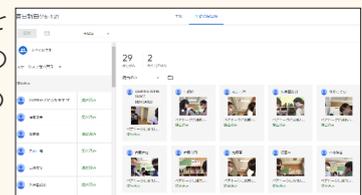
外国語科においては、2021年度からデジタル教科書の使用が可能となり、一斉授業では指導者用のデジタル教科書をほぼ毎時間活用している。主に使う機能は、チャンツやジングルの練習、リスニングの問題などである。また児童は、個人端末において学習者用デジタル教科書を使用できるため、個別学習、家庭でのテスト前の復習などに

ジングルやチャンツ、リスニング問題に取り組むことができる。

上越市では、授業支援システムとしてGoogle Classroomを採用して、課題提出や児童への連絡、個別の支援に活用している。特に、複数の学校に勤務する英語専科教員にとっては、顔を合わせられない児童に対しても連絡を取ることができて便利であった。

iPad導入当初は、課題として自己紹介や歌、ペアトーク、自分の夢の紹介などの動画を撮影して提出させた。提出された課題で評価をしたり、授業改善の材料としたりしている。また、児童自身が自らの学習の歩みをポートフォリオ的にためることができるので、自分の姿を見直すことで学習改善をすることにも役立っている。

その他、評価のルーブリックを提示したり、パフォーマンス課題の採点をして返却したりなどのGoogle Classroomの機能を活用している。



## 学習者用デジタル教科書の使用について

対面での一斉授業では、基本的に指導者用デジタル教科書で授業を進めている。学習者用デジタル教科書は、個々の端末で音を出すと教室が騒がしくなるので、使用する場合は個人用のイヤホンがあることが望ましいなど、使わせるうえで必要な配慮事項がある。当校では、別室で会話のパフォーマンステストを行った後、教室に帰ってきてから個別に、Listen and Do を解き直したり、学期のまとめ問題である Review に取り組んだりなどの使い方をしてきた。

また、学習者用デジタル教科書は、指導者用デジタル教科書とほぼ同じ作りになっているが、Listen and Do などの聞き取り問題の答えは掲載されていない。そのため、児童が個人で問題に取り組んだ後は、教師と共に答えを確認することが必要である。

さらに、学習者用デジタル教科書を、家庭学習でも用いるとより効果的であった。一斉授業では時間が限られているためジングルや

チャンツは数回ずつしかできず、中には習熟が不十分な児童も出てしまう。「チャンツを自分の声だけでリズムに乗って言えるようになるまで何度も練習する」というような宿題を出しておく、自分のペースに合わせて必要なだけ家庭で練習できる。宿題を出した翌日にはチャンツがととても上手に言えるようになっていたことが多かった。また、児童のリスニング力が向上し、話すときの発音の間違いが減るなどの効果も見られた。

英語は、短時間でもよいので毎日聞いたり声に出したりすることでより自然に定着する。学習者用デジタル教科書は、週2回の外国語科の授業に限らず、児童が好きな時に好きなだけ反復練習することができる魅力的なツールである。文部科学省が推進する「令和の日本型学校教育」における「個別最適な学び」に沿う形で学習が進むので、より効果が発揮されるのではないだろうか。

## 休校中のオンライン授業

当校では、2021年度の3学期に新型コロナウイルス感染症の拡大により休校となる日が多く続いた。そのため、児童個人用のiPadを家庭に持ち帰らせ、オンラインで授業を行った。休校で対面授業の時数は減ったが、学習者用デジタル教科書があるおかげで、オンラインで授業を継続できたのはとてもありがたかった。

オンライン授業を行うためには、デジタル教科書の設定と動作確認、さらにデジタル教科書の家庭での動作確認を行うなど、事前準備が必要となる。学習者用デジタル教科書を一度設定しても、何らかの都合で急に設定をし直す必要のある児童が数名出たため、全員で安定して使えるまでには日数を要したが、

休校前の研修や準備の機会があったので比較的スムーズに環境を整えることができた。

今回行った外国語科のオンライン授業は、① Google Meet で教師と児童らが顔を合わせながら会話をする活動、②指導者用デジタル教科書を画面共有して一斉に説明をしたり、ジングルやチャンツに取り組んだりする活動、③児童が自分の学習者用デジタル教科書で問題を解く活動の主に3種類の活動で構成した。



## 授業の展開 — Blue Sky elementary 5 教科書 p.88-89 4時間目/8時間目中 —

授業の流れ	主な学習活動	▶教師の手立て <input checked="" type="checkbox"/> 留意点 機器・教材
導入	Greeting 1分 ■ Hello. How are you? I'm happy to see you.	▶ 数名の児童に How are you? と教師から問いかけるようにする。

授業の流れ	主な学習活動	▶教師の手立て <input checked="" type="checkbox"/> 留意点 機器・教材
	<p><b>Small Talk</b> 4分</p> <p>■ 教師が週末に食べたものの話を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>Do you like curry? Last weekend, I went to a new Indian restaurant near the station. Do you know that restaurant? I ate chicken curry and my husband ate vegetable curry. I chose regular curry and my husband chose the spicy one. Both curry were delicious. The chef was from India. We enjoyed hearing about India.</p> </div> <p><b>【Jingle】</b> p.86/p.88 3分</p> <p>■ 指導者用デジタル教科書の画面を共有し、食べ物と味の言い方を練習する。</p> <p><b>【Chants】</b> p.88 7分</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>What's would you like? I'd like pizza. How is it? It's delicious.</p> </div> <p>① 教師の画面を共有して全員で練習する。 ② 学習者用デジタル教科書を用いて個別練習をする。「リズムのみ」を流して1人でチャンツが言えるようになるまで何度も練習し、5分経ったら Google Meet に戻る。 ③ 全員で「リズムのみ」でチャンツを行い、練習の成果を確認する。</p>	<p><b>Google Meet の画面共有</b></p> <p>▶ 話を聞くとときに、あいづち、繰り返し、ほめ言葉などこれまで学習したことを活用できるようにする。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 児童の反応がわかるように、ミュート機能をオフにするよう伝える。</p> <p>▶ 2回目は、画面共有機能で写真を見せながら教師の話を聞き、理解できたか確認する。</p> <div style="text-align: right; margin: 10px 0;">  <p>spicy curry</p> </div> <p><b>指導者用デジタル教科書</b></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 日本語と異なる言い方 (French flies, bread など)、似ているが音が異なる言い方 (salad, yogurt など) に気を付けさせる。</p> <p>① <b>指導者用デジタル教科書</b> 児童の実態に合わせて「ゆっくり」→「ふつう」→「リズムのみ」のようにレベルを上げていく。</p> <p>② <b>学習者用デジタル教科書</b></p> <p>③ <b>指導者用デジタル教科書</b> 練習の成果から上達している部分を見つけて褒めるようにする。</p>
<p><b>展開</b></p>	<p><b>【Listen and Do ②】</b> 10分</p> <p>■ レストランの店員になって注文を聞き取る練習をする。</p> <p>① 学習者用デジタル教科書を開き、問題を解く。答えはデジタル教科書に書き込む。 ② 5分経ったら Meet に戻り、教師の画面を共有しながら全員で答え合わせをする。</p> <p><b>【Activity】</b> 15分</p> <p>■ ペアで店員と客になって注文をしたり、受けたりする練習をする。</p> <p>① 初めに教師とボランティアの児童で例示を見せる。 T: What's would you like? S: I'd like pizza. T: How is it? S: It's delicious.</p>	<p>① <b>学習者用デジタル教科書</b></p> <p>② <b>指導者用デジタル教科書</b></p> <p>①▶ "Any volunteer?" と聞いて、挙手をした児童と例示をするようにする。</p>

授業の流れ	主な学習活動	▶教師の手立て <input checked="" type="checkbox"/> 留意点 <span style="background-color: #f8d7da;">機器・教材</span>
<p style="text-align: center;"><b>導 入</b></p>	<p>② 数人の児童を教師が指名をして、教師と児童で会話を する。</p> <p>③ 4人ずつのブレイクアウトルームに分かれ、お互いに 店員と客の役になって会話を する。</p>	<p>③▶ グループワークが円滑に進めら れるよう配慮して教師が事前に ブレイクアウトルームのための 班編成をしておく。</p>
<p style="text-align: center;"><b>まとめ</b></p>	<p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Reflection</span> <span style="background-color: #fff3cd;">5分</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1時間の学習のできるようになったことなどの感想を、 チャット機能に書き込む。</li> <li>■ 「店での食べ物の注文のやり方が分かりました。」</li> <li>■ 「友達と料理を注文し合ったのが楽しかったです。」</li> </ul> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">Closing</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 最後のあいさつをする。 You did a great job. That's all for today. See you next time!</li> </ul>	<p style="background-color: #f8d7da; padding: 2px;"><b>Google Meet のチャット機能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 教師は児童の書き込みを随時読み 上げながらがんばったことを評価 して、その場で感想を共有する。</li> <li>▶ 本時の内容は、オンライン授業の みで終わることなく対面授業で復 習することを伝えて、安心させる ようにする。</li> </ul> <p><input checked="" type="checkbox"/> 児童のがんばりを認める。</p>

## まとめ

Small Talk では、最初は音声だけで教師の話の聞き、ある程度の内容を理解した後、内容に合った写真を提示して児童の理解を助けた。写真の提示は、Google Slide を画面共有し、児童に提示した。

実は、オンライン授業 1 回目には指導者用デジタル教科書の画面共有がうまくいかなかった。指導者用デジタル教科書の音声も児童の端末で流れなかったため Jingle や Chants は使用できなかった。指導者用デジタル教科書を Google Chrome 以外のブラウザで開いていて、Google Meet では Google Chrome 以外の音声を共有できないことが原因だった。

その後、指導者用デジタル教科書を Google Chrome で開くことによって、画像も音声も共有できるようになった。このように、実際にオンライン授業がスムーズに使用できるようになるまでには、教師も児童もオンライン授業で使うツールに慣れておくことが必要だと感じた。さらに、オンライン授業のマナーとして、ミュートをオンオフにするタイミング、ビデオをオンオフにするタイミング、チャット機能の使用法など、

授業者と児童でルールを決め、共通理解を図っておくことも必要な事前準備だったと感じている。

最後に、学習者用デジタル教科書を用いて児童が個別に学習できる環境を整えたことで、45分間の授業時間を超えて「児童の個々の学び」の可能性が大きく広がったと感じている。英語学習は、これまでの学習の経験年数や家庭環境によって個人差が大きい傾向が見られる。英語が得意な児童は一斉授業では飽きてしまい、また英語の学習経験が少ない児童や英語が苦手な児童にとっては授業での練習が不十分なことから苦手意識を高めやすいという問題がよくあった。特に5年生では、「話す」「聞く」活動が中心のため、紙の教科書だけでは音がわからず、個人的に練習することは困難であった。学習者用デジタル教科書を用いることで、児童一人一人のニーズに合わせて「個別最適な学び」が保証されることの意義は大きい。子どもたちが意欲的に学習に向かえるよう、これからも積極的に活用していきたいと考えている。